

<三学期の保育の視点（願い）>

- ① クリスマスにお生まれになったイエスさまが、いつも私たちと共にいてくださり、愛してくださる方であることをおぼえる。
- ② 安心して過ごす中で、好きな遊びを繰り返し楽しむ。
- ③ 友だちとの関わりの中で、自分の気持ちを相手に伝えること、我慢すること、待つこと、謝ること、ゆずることを体験する。
- ④ 遊びの中で、手の技を身につけ、また体験を広げる。
- ⑤ 基本的な生活習慣（衣服の着脱、排泄、お弁当の支度など）を身につけ、自分でできることをする。
- ⑥ 冬から春への自然の変化を五感で感じる。

「あれなあに？」

三学期の保育の視点⑥より

この冬、ウッドデッキの横にあるキンカンの木に、沢山実がなりました。キンカンに気が付いた子どもたちが、先生と一緒に食べることを楽しんでいます。

あるお昼後、ウッドデッキの上で遊んでいた A ちゃんがキンカンの木に気が付き、じっと見ていました。私が A ちゃんの傍に立つと、A ちゃんは実を指さして「あれなあに？」と言いました。私が「キンカンっていうのよ。ひとつ食べてみる？」と答えると、A ちゃんは「あれ食べられるの？」と言って目をまんまるくして、それから「食べてみたい！」と言いました。「どれがいいかな～」と嬉しそうにつぶやきながら、A ちゃんは木を見まわします。私が「黄色くなっている実がおいしいわよ」と伝えると、A ちゃんは一つひとつよく見てどれにしようかと迷っています。しばらくすると「これにしよう！」と決めてもぎました。

水でよく洗った後、A ちゃんは困った顔で私を見て「これどうやって食べるの？皮がむけないよ」と言いました。「皮ごと食べられるわよ」と言って私が食べてみせると、A ちゃんは驚いて「ええ！皮ごと食べちゃうの？」と言いました。それから A ちゃんもおそるおそるそっとキンカンをかじってみました。「なかなか噛めないよ」と言いながらも、嬉しそうに食べる A ちゃん。少しずつかじりながら「汁がでてきた！」「甘くておいしい」「種も入っているよ」と、色々な発見をしていました。全部食べた後「おいしかった！また食べたいな」と言って、満足気に笑いました。

A ちゃんのように、子どもたちは遊びながらまわりの事象に目をとめ、心を動かしています。凍った水たまり、年長組の子どもたちが育てている畑の野菜、チューリップの芽…。子どもたちの発見や喜びに共感し、おもしろさを一緒に共有し、神さまからいただいた自然の恵みに感謝したいと思います。遊びがあり、先生がいて、友だちがいるから、おもしろさや「これ何だろう」という興味が広がっています。

新たな友だちとの出会いが生まれ、嬉しくなっています

三学期の保育の保育の視点③より

ルールを守って遊ぶ楽しさや、新しい友だちと出会う 1 つのきっかけとなることも思って、1 月半ばから※かたつむりのゲームを用意しました。

(※ボードに 6 色のかたつむりを並べ、サイコロをふります。サイコロの出た色と同じ色のかたつむりが 1 マスずつ進むというゲームです。)

ある日支度を終えた B ちゃんが「かたつむりのゲームをしたい」と言って座りました。「いいわね。準備をしましょう」と言い、私が B ちゃんとかたつむりを並べていると、C ちゃんが「いーれーてー」とやってきました。「いいよ」と嬉しそうに答える B ちゃん。後から D ちゃんも「私もやりたい」とやってきて一緒に座りました。私は『ゲームを通して、新たな関わりが生まれるといいな…』と思いながら 3 人の様子を見守りました。

「私からやるね」と B ちゃんがサイコロをふりました。C ちゃんと D ちゃんも順番にサイコロを振っていきます。「ピンクがもうすぐゴールしそうだよ」と B ちゃんが言うと「本当だ！私は黄色が進んでほしいな」と C ちゃん。「青いかたつむりがなかなか進まないね」と D ちゃんも答えます。3 人は楽しそうに話しながらゲームを進めていきました。時々「何回もサイコロふるのずるいよ！1 回ずつだよ！」「勝手にかたつむりを進めちゃだめだよ！戻して！」ともめることもありましたが、かたつむりがゴールをしていくたびに「やったー！」と言って、3 人で喜びあっていました。

それからしばらくして全部のかたつむりがゴールをすると、C ちゃんが「そうだ！一緒にねこごっこしようよ」と言いました。「いいね！」と B ちゃんと D ちゃんが答えます。「お家はどこにする？」「積み木のところがいいよ！行ってみよう」と言って、3 人はにゃーにゃーとねこになりながらお家を目指して歩き出しました。その後、魚を探したり、お散歩をしたりするねこのお話を楽しんでいました。

一緒に居たことがきっかけとなり、その後に「一緒に遊ぼう」と誘いあう姿が見られます。また、一人で遊ぶことが多かった子どもたちが「友だちと一緒に遊びたい」と思うようになってきている様子もあります。その時だけのつながりでしばらくするとまた違う友だちと遊ぶこともあります。「だめよ」と言われて悲しくなることもあります。いずれにしても友だちとの出会いに心を動かしている子どもたちです。

私たちは遊びを通して関わりを支えたり、様々な友だちと一緒に弁当を食べられるよう座り方を工夫したりしています。友だちとの関係がより楽しくなり、少しずつ広がっていくことを願い過ごしています。

(杉本 美緒)

<年少組 2月>

かたつむりのゲーム



ねこごっこを楽しむ



セロテープで箱をつなげる



こままわし

